

単元名 小学校5年国語科 事実と意見を結びつけて書こう～生活をよりよくする提案～（教育出版）		
学習指導要領・単元の見目標 (1)文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成、話や文章の種類とその特徴について理解する。 (2)「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 (3)「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。 (4)「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができる。		
評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成、話や文章の種類とその特徴について理解している。	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 ②「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。 ③「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	①目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書いたり、文章の構成を意識したりしながら粘り強く書き進めるとともに、友達との伝え合いを通して自らの文章のよいところを見付け、表現を整えようとしている。

【パフォーマンス課題】みんなの生活がもっと楽しく、よりよくなるための『提案文』を書こう！
みんなの熱い思い（意見）と、それを支えるデータや証拠（事実）を組み合わせ、校長先生や児童会、担当の先生、友達の心を動かし、検討してもらおう！

目指す子どもの姿（育成を目指す資質・能力）
○事実と意見・感想の違いを正しく理解している。 ○相手に自分の意見が伝わるように文の構成(はじめ・中。終わり)を考えている。 ○「」を使った強調の仕方や文末表現を意識している。 ○友達の文章を「提案内容とその理由がはっきりとしているか。」「事実と意見・感想が区別して書かれているか。」「提案が伝わる構成になっているのか。」という視点で読み、良いところを伝え合ったり、アドバイスを自分の文章の修正に生かしたりする。

付けたい力・子ども観・教材観
本教材は、子どもたち自身が学校生活をよりよくするための提案文を記述する活動であり、教師が子どもの多様な考えを肯定的に受け止めつつ、「生活の改善」という本質的な視点から逸脱しないようにしたい。子どもたちの「これを実現させたい」という切実な思いこそが、内発的動機付けとなり、「学びたい」「書きたい」という主体的な意欲へと直結すると考える。一方で、子どもたちには自らの学習状況を客観的に捉え、必要に応じて記述を修正・改善していく自己調整力に課題が残る。そこで本授業実践においては、毎時間のはじめに「今日やること」を自己決定して学習計画を立て、終末に「振り返り」を行う。この一連のサイクルを反復することにより、子ども自身が自らの学習状況を把握し、課題を次時の学習へと主体的に繋げていく力を育んでいきたい。

ループリック	
A	事実と意見を効果的に結びつけ、文章の構成を考え、表現の仕方を工夫して書くことができる。友達との伝え合いを踏まえて、自分の文章の展開や表現を整えることができる。
B	事実と意見とを明確に区別して書いている。また、相手に自分の意見が伝わるように文の構成を考えて提案文を書き表し、友達と読み合って、自分のよいところを見つけることができる。
C	教科書 p76～p80 を読み、提案文の「はじめ・中・終わり」の基本的な構成を確かめたり、ワークシートの項目（提案すること、理由、事実、意見）を埋めたりしながら、生活をよりよくするための自分の考え（意見・感想）を書くことができる。

次	1次		2次				3次	
時間	1	2	3	4	5	6	7	8
学習活動 (学習内容)	単元のゴールを知り、「提案したいテーマ」と「提案する相手」を決定する。 ① 提案文のポイントとルーブリックを確認し、これからの学習計画を立てる。 ②		終わりし 中 始めし 構成し 『給食をバイキングにすることを提案します』 5年 長谷川知美 私たちは毎日おいしい給食を食べています。しかし、メニューや量について、みんなが本当に満足しているでしょうか。そこで、私たちの学校生活がもっと楽しく、よりよくなるために、「バイキング給食」を実施することを提案します。提案の相手は、いつもメニューを考えてくれている栄養教諭の先生です。 私がこの提案をする理由は、残食を減らしたいからです。私たちのクラスで一週間の残食の量を量ったところ、合計で10キログラムもありました。また、学級全員にアンケートをとったところ、残した理由の第一位は「自分の苦手な食べ物が入っていたから」、第二位は「量が多くて食べきれなかったから」という結果でした。これが、今の給食の確かな課題です。 バイキング形式にすれば、自分が食べられる量を自ら選択して配膳することができます。苦手なものでも「一口だけ挑戦してみよう」と自分で決めて減らすことができるため、残食を大幅に減らせるという大きなメリットがあります。 『給食をバイキングにすることを提案します』 5年 長谷川知美 私たちは毎日おいしい給食を食べているが、メニューや量について、みんなが本当に満足しているか疑問に思っています。そこで、バイキング給食を実施したいです。 クラスで給食の残食の量を調査したら、一週間で約10キロもの量が残っていました。アンケートを取ると、残した理由の第一位は「自分の苦手な食べ物や、食べられない量が入っているから」ということと分かりました。 バイキング形式にすれば、自分が食べられる量を自分で配膳することができます。苦手なものでも「一口だけ挑戦してみよう」と自分で決めて減らすことができます。そのため、「残食を大幅に減らせる」というメリットがあります。 バイキング給食が実現すれば、残食だけでなく、毎日の給食の時間がもっとワクワクする時間になります。上士幌小のみんなの笑顔と健康のために、ぜひバイキング給食の実施を考えてみてください。				自分が作成した提案文をクラスの仲間と発表し合い、交流する。 交流したことを生かして、提案文を改善する。	
	子どもの姿	給食でバイキングをやりたいな。提案する相手は、栄養教諭の先生だ。① 	ただ「やりたい」と自分の思いを書きだけじゃ相手は動いてくれないな。 ② アンケートや観察したデータ(事実)を意見と結びつけるのが大切なんだね。 ②	提案を支える説得力のある事実は何だろう？ ③	事実と意見のつながりは大丈夫かな？ ③④	事実と意見のバランスはどうか？ ⑤	相手にうったえかける文末表現になっているかな？ ⑤⑥ 	自分が作った提案文を発表する。 ルーブリックを参考にして、自己評価を行う。 友達と評価用紙を渡し合い、提案文を改善する。 
教師の指導・支援・評価	・子どもたちの「これを実現させたい」という切実な思いを引き出せるようにするとともに、「生活の改善」という本質的な視点から逸脱しないようにする。 ・教師の例示からルーブリックにつなげる。 知識・技能①		・図書資料やヒントとなるキーワードを示したりして、自発的な調査（青の収集）をサポートする。(③) ・上士幌町デジタル担当職員がデータ収集(グーグルフォームなど)の支援を行う。(③) ・事実と意見が正しくワークシートに分別されているか問いかける。(③④) ・自分の文章を客観的に見ることができるように、カラーマッピングを伝える。(⑤⑥) 青→事実 黄色→意見 赤→デメリット ・手が止まっている子へのサポートをする(③④⑤⑥) 思考・判断・表現①②				・①提案の理由となる確実な事実（青）が書かれているか ②事実と意見（黄）がしっかりと繋がっているか③段落分けがされているか④相手にうったえかける文末表現が使われているか。といったルーブリックに基づいた視点を確認する。 思考・判断・表現③ 態度①	
子どもの主体性を図る自己調整度合 (課題：課程：形態)	1：5：2		3：8：8				3：8：5	

次	1次			2次			3次		
時間	1			2			3		
問い これはなんだろう どんなつくり・成り立ちだろうな ぜこうなっているのだろう なぜこうしたのだろう 他のものはどうだろう 他の人はどう考えたのだろう				4	5	6	7	8	9
今日やること 誰と どこで 何を使って									
うまくいったこと 原因									
うまくいかなかったこと 原因									
次回 やりたいこと									